

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 株式会社日清製粉グループ本社（証券コード:2002）

### 【据置】

長期発行体格付	A A
格付の見通し	安定的

### 格付事由

- (1) 製粉、加工食品、酵母・バイオなどの事業会社を傘下に置く純粋持株会社。持株会社によるガバナンス状況などから、グループの一体性が認められ、格付にはグループの信用力を反映させている。小麦粉、プレミックス、パスタなど多くの製品はブランド力や提案力が高く、国内トップクラス。将来の小麦の輸入自由化に向けて、特に海外での体制整備で先行している。小麦粉では14年に日清製粉の米国子会社が製粉4工場を取得し、全米4位の製粉会社となった。海外生産能力は急速に拡大し、現在国内に比肩する水準にある。また、パスタではトルコと米国に生産拠点を有している。
- (2) 製粉事業は安定した収益力を発揮している。また、食品事業はアジアで事業を順調に拡大し、国内で競争力のある製品を投入するなど収益力が強化されている。全体収益については拡大基調を維持できている。成長に向けた投資も継続しているとはいえ、財務基盤は依然強固である。今後も事業規模拡大に向けた戦略投資を実施していく方針であるが、財務構成とのバランスを図りながら実施されるとJCRでは考えている。以上を勘案し、格付を据え置き、見通しを安定的とした。
- (3) 18/3期営業利益は260億円（前期比1.9%増）と3期連続の増益見込みである。中でも、当社オリジナルのボトルタイプ家庭用小麦粉や調理の簡便化ニーズをとらえた早ゆでパスタの販売が伸びるなど、食品事業が堅調に推移する見通しである。ただ、北米製粉事業において販売競争が激しくなっていることには留意を要する。19/3期は安定した国内製粉事業に加え、中食・惣菜事業での供給能力拡大、海外プレミアム事業での需要増加を背景に食品事業が下支えとなり、底堅い収益力を発揮できると考えられる。
- (4) 17/3期末の自己資本比率は70.6%と高水準にある。手元流動性は約900億円保有しており、実質無借金である。18/3期の設備投資はカナダのチリワック製粉工場の増設や米国サギノー製粉工場の生産能力増強工事などで200億円（前期135億円）を計画している。中期的には食品事業でインドのイースト工場新設などが予定されている。ただ、投資額全体では営業キャッシュフローで吸収可能とみられ、財務構成への影響は限定的と想定される。

（担当）井上 肇・小野 正志

### 格付対象

発行体：株式会社日清製粉グループ本社

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA	安定的

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2017年11月17日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：窪田 幹也  
主任格付アナリスト：井上 肇
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「食品」（2011年7月13日）、「持株会社の格付方法」（2015年1月26日）、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付けの視点」（2003年7月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：  
（発行体・債務者等） 株式会社日清製粉グループ本社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付していません。

### 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

## 株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル